

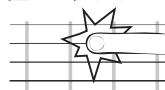
注意点1

ライトハンドのための
2つの注意点

ライトハンドは、右手でハンマリング&プリングを行なうテクニックだ。のちにタッピングと言われるようになり、さまざまなバリエーションが生み出されてきた。ここでは、基礎的なやり方について解説しよう。ポイントは2つ。1つ目は、タッピングは弦の真上から叩くようにすること。斜めから叩くことは、弦を持ち上げてピッチが上がってしまったり弦がネックからはずれてしまう恐れがある(図1-a)。2つ目は、プリング時は1弦側か6弦側に軽く引っ掛けるようにすること。強く引っ掛けてしまうと(図1-b)、同じく弦を持ち上げてピッチが上がってしまったり、弦がネックからはずれてしまったりする。また、弦の真上方向へのプリングは、音がしっかりと出ないので避けよう。この2点を頭に叩き込んでから、右手で指板を叩くべし!

図1-a タッピング時の指の角度

○ 真上から叩くパターン



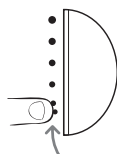
弦を持ち上げることはなく、ピッチも正確。

× 斜めから叩くパターン

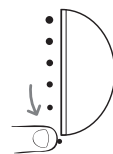


弦を持ち上げてチョーキングしてしまうので、ピッチが正しくない。

図1-b タッピング時のダメなプリング例



弦を持ち上げて、音程を上げてしまう。ノイズも多いので厳禁だ。

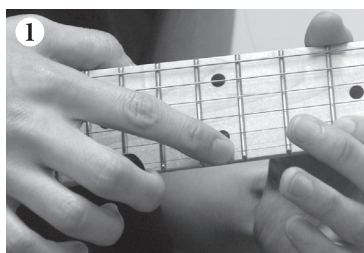


弦がネックの下にはずれてしまう。音にならないのでNG!

注意点2

右手と左手が絡み合う
変則的なタッピング

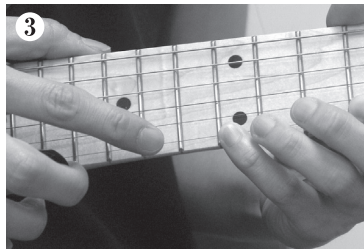
このフレーズは、全体的にくり返しが多いので、まず左手と右手のポジショニングを確認しておくことが大切だ。そして1つのフレーズに慣れてきたら、次のフレーズにチェンジしていくという感じで練習すれば良いだろう。少し変わったポジション移動をする2小節目1拍目は注意が必要だ。1弦12フレットをタッピングした後に、同じ1弦12フレットを左手の小指でハンマリングしている(写真③)。この瞬間に、右手は次の14フレットの方へ移動させておくこと。右手の移動が遅れると、左手の小指とぶつかってしまうので注意しよう。その後にまたタッピングした14フレットに左手薬指でハンマリングする箇所が登場するが、そこも気をつけること。ちなみにこれはポール・ギルバートがよく使う移動パターンだ。



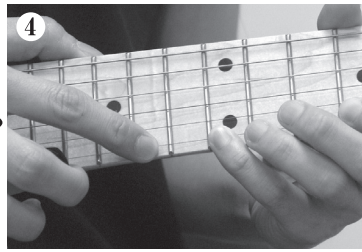
1 右手でタッピング。人差指で1弦9fを押さえておく。



2 右手でプリング。12f付近からすぐに放れること。



3 小指によるハンマリング。右手は次の14フレット上に移動。



4 14fをタッピング。この時、小指は押弦したままで。

～コラム28～

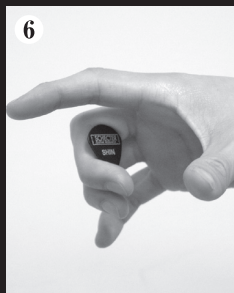
地獄の戯れ言

タッピングをどの指でやるのかは好みの問題だが、人差指派か中指派のどちらかに大きく分かれると思われる。基本はどちらかと聞かれれば、筆者は人差指と答えている。エディ・ヴァン・ヘイレンが人差指を使っているという理由だけではなく、人差指だとボタンを押す感覚で細かく速い動きができるからだ。またネックに親指を添えられるので、安定度も高い(写真⑤)。その際に、筆者は中指の内側にピックを入れるように持ち替えている(写真⑥)。その点、中指派はピックを持ち替えずにすぐにタッピングできるところがおいしい(写真⑦)。最近はこの2つを使い分ける人も多いようだが、キミならどっちを選ぶ?

タッピングの指は、人差指? 中指?



5 安定性&敏捷性は抜群だが、ピックの持ち替え問題がある。



6 タッピング時、ピックは中指の裏に挟むように持つ。



7 ピックの持ち替えがないため、すぐにタッピングに移れる。